

長野式臨床研究会

平成 20 年 第 10 期 マスタークラス 大阪セミナー Q & A
第 3 回 20 年 5 月 25 日 テーマ「リンパ節腫脹」 講師 長野康司

リンパ節腫脹 治療上の注意点、まとめ

* リンパ節の役割 1) 濾過作用 2) リンパ球生成

* リンパ節炎と筋緊張の関係（推論）
何らかの理由により免疫力が低下

自律神経がバランスをとろうとして交感神経が優位になる

脊柱起立筋の緊張等、筋緊張へと繋がる

（また、 と が逆になり自律神経のバランスが崩れて、免疫力低下に繋がることもある）

* リンパ節炎の基本処置

- 1) 扁桃処置・・・免疫力低下により、細菌感染をひきおこし、炎症となる
- 2) 筋緊張緩和処置・・・自律神経がバランスを崩し、筋緊張となる
- 3) 横 V 字 C7、T1、2・内頸静脈（周辺にリンパ節が点在）の血流を促す
- 4) 気水穴処置・・・変動経絡、脉差診により、異常のある経絡を整える

* 横 V 字椎間刺鍼の C7、T1 は、椎骨脳底動脈、総頸動脈及び下降する内頸静脈に関与していると考えられる。このうち内頸静脈は鎖骨下静脈と繋がっているのが C6～T1 周辺である。

この内頸静脈周辺に、耳下リンパ節、顎下リンパ節、深頸リンパ節、そして口蓋扁桃がある。この部の血流を促すことは、リンパを含めて流れを良くすることに繋がる。

* リンパ節炎は、扁桃に非常に関連が深く、口蓋扁桃の炎症もおこしやすい。筋緊張緩和処置「丘墟、上四瀆」によっても、リンパの流れを良くする為に、効果大である。

* ・熱がある場合 細菌性を疑う（急性リンパ節炎）

・痛みがある場合 リンパ節炎（急性、慢性リンパ節炎）

・痛みがない場合 リンパ節腫脹

例としては少ないが、更年期症からリンパ節腫脹になることもある。

* 症例 2、子供のリンパ節炎の処置に「T3 の横 V 字椎間刺鍼」とあるが、この部は「身柱」にあたり、胸腺の裏側。子供の胸腺は発達しているので、この部を使用した。

* 腺病体質とは、竹久夢二の美人画に描かれている女性のようにヒョロヒョロして弱々しい体質をいう。

* 精神的なものからも症状がでる場合が多々あるが、話を聞くことも大事な治療になる。

* 心身症・・・心の原因 身体 of 症状

神経症・・・心の原因 心の症状

「脈のイメージトレーニング」

- ・まず、目を閉じて意識を集中して、指先だけに神経を集中して、頭だけでイメージしていきます（この時にはまだ脈を診ない、あくまでもイメージだけです）
- ・指の位置は、六部上位の脈診法に準じ
まず、橈骨茎状突起内側の橈骨動脈拍動部に中指を当て、その上下に示指と環指を沿わせる
- ・示指で触れる脈を「寸口の脈」
中指で触れる脈を「関上の脈」
環指で触れる脈を「尺中の脈」
- ・指の当て方は、
まず、軽く押えて触れる脈を「浮脈」
次に、グッと骨まで押えて触れている脈を「沈脈」
そこから、少し力を抜いた位置で触れる脈を「中脈・胃の気の脈」と診ていきます。（この「中脈」で、脈状を診ていくことが多いです）
熟練していく事でこの動作は速くなり、脈状が診れるようになってきます。
- ・祖脈
「浮脈」・・・ちょっと触れただけで触れる脈。病が表層にあることを現わす
「沈脈」・・・グッと深く押して触れる脈。病症が奥に入って、高齢者、疲れある人
「遅脈」・・・60拍以下のゆっくりとした脈。冷え、全身倦怠を現わす
「数脈」・・・80～90拍以上の早い脈。熱証、自律神経失調症を現わす
「虚脈」・・・沈めて非常に弱い脈。正気不足、疲れが溜まっている
「実脈」・・・指から脈があふれてきそうな勢いのある脈。邪気旺盛
- ・男性は「左」の脈が強いのが順
女性は「右」の脈が強いのが順
- ・このイメージを繰り返し、実際の臨床上で診ていってください

質問

質問 01 「心身症」の症例で使われている「自律神経調整処置」で使われた処置は具体的に何でしょうか？

この場合「イヒコン」を使用しました。脳循環を良くする為に使ったのですが、他に「趾間穴」「足底裏横紋」も良いですよ。

質問 02 症例 1、「リンパ節炎」の処置に、「扁桃処置」と「照海」が重複して書いてあるのですが、改めてやらないといけないのでしょうか？

重要だということです、重複して治療しなくて良いです。

質問 03 「磁気鍼」とは「マグレイン」の事でしょうか？
また、「皮内鍼」ではダメなのでしょうか？

子供なので、動きが激しいことを考えて皮内鍼ではなくて磁気鍼を使ったわけです。大人なら「皮内鍼」でも良いです。

質問 04 「上四瀆」の皮内鍼を打つ方向は？

下から上に向かって流注に沿って、筋肉に平行に痛みが出ないように刺入。

質問 05 長野先生の症例 1「変形性膝関節症及び坐骨神経痛」で、膝の裏の痛みに対して「委中、委陽」に皮内鍼を固定とありますが、方向は？

この人は、膝裏に腫隆があり、腫隆には皮内鍼がよく効きます。
腫隆部に直接、膝を曲げても大丈夫なように 5 ミリの皮内鍼をしわと平行に水平刺入します。

質問 06 この症例の「変形性膝関節症」の治療はしていないようですが？

胃経 3 点等、トータルで治療しています。腰からのアプローチもこれに関与しています。

質問 07 この「変形性膝関節症」の変形レベルは？

膝を伸ばして寝ると、膝の下が少し浮く程度、熱はないです。
正座が多いので、じわりじわり進んできたと思います。
この患者さんは、2 年前からの発症ですが、5 年でも、10 年でも同じで、変形は軟骨が磨り減っている為治りませんが、痛みがだんだん取れてきます。この場合も、全体治療が重要になってきます。

質問 08 「筋緊張緩和処置」で、「丘墟・上四瀆」の治療後もまだ硬い場合は、皮内鍼を固定しても良いのでしょうか？

「丘墟」へはチクチクするので皮内鍼をやらない方が良いでしょう。通常は緩んでくるまでじっくり雀啄を加えて、それでも緩まない場合は施灸のほうが良いでしょう。

質問 09 生後3ヶ月の赤ちゃんが治療にみえているのですが、鍼治療は何歳からやってもよいのでしょうか？

3~4ヶ月(生後100日位)で頸が据わってきます。頸が据わっていれば大丈夫です。それまではしない方がよいです。
新生児は、免疫力も弱いので、特に注意が必要です。

質問 10 乳がんの手術後、腕がパンパンに腫れてしまった場合の治療は出来るのでしょうか？

乳がん手術の後遺症として、リンパが腫れて腕が象の足のようになります。そうなるとなかなか難しいですね。

質問 11 パニック障害で、主訴が肩凝りの患者さんが、歯医者、床屋等、長時間同じ姿勢に固定されると落ち着かないといいます。この様なパニック障害の対処法はありますか？

これは、急性不安神経症ですので、神経過敏になっています。自律神経を安定させるように留鍼から始めます。また、C7、T1、2の横V字椎間刺鍼、カウンセリングで不安を取ってあげるのも重要です。

質問 12 刺鍼の刺激量は？

始めは弱刺激で少穴、不安感を払拭させるほうがよいです。
不安が強いので、大丈夫ですよと患者さんに伝えて、リラックスできるようになったら「C7、T1、2、自律神経、瘀血、扁桃等」の治療を始めます。

質問 13 瘀血がなかなか取れない場合、瘀血塊に直接刺鍼してもよいのでしょうか？

大丈夫です。

質問 14 この瘀血、頑固な場合は、「膈俞」に皮内鍼でもよいのでしょうか？

皮内鍼も必要な場合があります。

質問 15 いつも風が吹いているように腰が冷えるのは？

虚脈等正気の不足によります。疲れ易く、血管が収縮するため冷えやすくなるのでしょうか。